（実践テーマ）
互いの意見を尊重し，創意工夫しながら，集団活動の連帯感を高め，
充実感・達成感が味わえる特別活動のあり方

日立市立河原子中学校

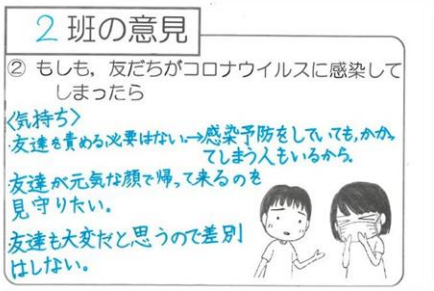
1　はじめに

今年度は，コロナ禍で例年通りに行事を行うことはできなかったが，今年だからこそ，思いやりを行動にできるあたたかい学校づくりに取り組んできた。行事の企画運営にあたっては，生徒会役員を中心として，１人１人のアイデアを取り入れながら，さらに良いものへと工夫し達成感のある活動にしている。その中でも，河原子中独自の取組を以下に紹介する。

2　資料

（１）　生徒総会

ア　事前の活動



「もしも友達がコロナに感染したら」「コロナ禍で大切にしていかなければならないこと」など生徒会からテーマを打ち出し，各学級で話し合う時間を設けた。各学級では，テーマについてグループ毎に話し合いを進め，学級で出た意見を全体会で発表するために動画やパワーポイント等を使って準備を進めた。

イ　生徒総会（全体会）

各学級の代表者は，クラスで出た意見を全体会で発表し，全校生徒で共有する。発表を聞いた後には，感想や意見を伝え合う時間を設け，１人１人が『自分事』として考えを深められることを目標にしている。また今年度は日本赤十字社の啓発資料「新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！」を活用して，生徒会役員がコロナ禍で大切にするべきことを改めて確認した。

（２）　一人暮らしの高齢者に花を贈る活動　（※今年度は未実施）

地域の一人暮らしのお年寄りの家を訪問し，学校の様子を報告したりねぎらいの言葉をかけたりしてお年寄りとの交流を深めることを目的とした活動である。一人一人が手紙を書き，花と一緒に贈る。訪問後は，学校にお礼の電話がかかってくるなど多くのお年寄りに楽しみにしていただいており，毎回生徒が来るのを心待ちにして下さっている。

3　成果と課題

コロナ禍だからこそできることを生徒と教員が皆一緒に考え,実行できたことはよかった。８月に実施した生徒総会で発表された内容は，10 月に実施したいじめ撲滅集会でも生かすことができ，生徒一人一人がより考えを深めることができた。今年１月に県独自の緊急事態宣言が発令されたが，いつでも生徒総会やいじめ撲滅集会で話し合った内容を新たな視点で振り返ることで，生徒が思いやりをもてるあたたかい学校づくりを促進することができた。